

歯科医学総合講義 4

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	4年次学年教育主任

学修目標 (GIO)	社会の要請に応える創造性と人間性豊かで自律する全人的な歯科医師となるため、これまで講義や実習で学んだ内容を統合し、松戸歯学部 student doctor として必要な態度・知識・技能を修得する。コアカリに記載されている学習項目を理解する。
担当教員	大峰 浩隆、落合 智子、金田 隆、河相 安彦、久山 佳代、小見山 道、近藤 信太郎、笹井 啓史、鈴木 久仁博、平塚 浩一、吉垣 純子、城座 映明、有川 量崇、宇都宮 忠彦、大口 純人、多田 充裕、加藤 治、後藤田 宏也、谷本 安浩、西村 均、若見 昌信、青木 伸一郎、淺野 隆、五十嵐 由里子、伊藤 誠康、伊藤 耕、卯田 昭夫、榎本 豊、遠藤 弘康、岡本 康裕、北川 剛至、栗原 紀子、五関 たけみ、佐々木 佳世子、玉木 大之、續橋 治、松野 昌展、布施 恵、松本 裕子、三田村 佐智代、吉野 祥一、小椋 一朗、田中 孝明、岩井 啓寿、岡部 達、岡本 京、河島 睦、川島 雄介、楠瀬 隆生、濱野 美緒、村松 輝晃、平川 剛、石井 智浩、伊藤 梓、小林 良喜、田口 千恵子
教科書	これまでに使用した教科書やテキスト
評価方法 (EV)	歯科医学総合講義4の定期試験は医学系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験を用いる。この科目を合格するには、以下の基準を満たすことが必要である。 *共用試験で、CBT (知識評価) と OSCE (技能・態度評価) のいずれもが70点以上であること。 最終成績も CBT (50%)、OSCE (50%) をもって作成する。 なお CBT、OSCE を受験するためには、歯科医学総合講義4で行われる平常試験の平均が60点以上であることが求められる。
学生へのメッセージ オフィスアワー	1. 1～4年次までに学習した自然科学分野、基礎医学分野、臨床歯科医学分野の知識を、基礎から臨床に向けて知識を整理しながら統合していくことを目的とします。 2. 12のユニットに分け、試験→理解できていない領域を自己評価→自学自習→平常試験を繰り返します。 また、自学自習で理解できなかった事項や解説のほしい事項を講義で取り上げますので、自学自習中に授業で取り上げてほしい事項を明示すること。 ユニット1：顎運動とその疾患 ユニット2：炎症・痛みとその疾患 ユニット3：微生物・感染・免疫とその疾患 ユニット4：歯質・歯の欠損と歯科材料 ユニット5：代謝・薬物動態・全身疾患と歯科治療 ユニット6：口腔領域の疾患(外傷)・画像検査・放射線 ユニット7：口腔領域の疾患(炎症・嚢胞) ユニット8：口腔領域の疾患(腫瘍)小手術手技・救急処置 ユニット9：口腔領域の疾患(唾液腺疾患・粘膜疾患) ユニット10：基本的事項(医の倫理・医療事故・コミュニケーションなど) ユニット11：口腔衛生・関連法規 ユニット12：発生・成長・加齢とその疾患 3. 理解の不足している部分を分析する能力を養い、自学自習の態度をに見つけ、学習する環境を整えることで、次年度に学習する臨床実習の成果を大きくすることができます。 4. 歯科医学総合講義4の学習の範囲は1～4年次をすべて含むので、今まで学習した内容を復習しておくこと。 6. 各自自学自習の時間やオフィスタimeを利用し、さらなる学力アップを図ること。CBT、OSCE 終了時には、歯科医師国家試験まで残り2年を切っていることを再認識すること。 注意1、平成28年1月6日9時より CBT DES 模擬試験を行う予定である。また本年度より麻布模試も加えることも検討する。 注意2、CBT、OSCEの結果が2月中に発表となる。同時に CBT 不合格者は再試験の申し込みが必要となるため、旅行などの予定は絶対に入れないこと。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/06 (水) 3時限 13:00～14:30	ガイダンス (歯科医学総合講義4について)	<p>【授業の一般目標】 歯科医学総合講義4について理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科医学総合講義4について理解する</p> <p>【準備学修項目】 歯科医学総合講義4を受講するに当たりの注意事項 歯科医学総合講義4シラバス詳細版を参照すること</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 学習の取り組み方 歯科医学総合講義4の授業の進め方 歯科医学総合講義4の学習範囲 自学自習の徹底 共用試験の概要 共用試験の実際</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 大口 純人 伊藤 誠康 三田村 佐智代 岡本 康裕 吉野 祥一 布施 恵 岡本 京 平川 剛 北川 剛至 田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/06 (水) 3時限 13:00～14:30	ガイダンス (歯科 医学総合講義4に ついて)	<p>【学修方略 (L S)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 大口 純人 伊藤 誠康 三田村 佐智代 岡本 康裕 吉野 祥一 布施 恵 岡本 京 平川 剛 北川 剛至 田口 千恵子
2016/04/13 (水) 3時限 13:00～14:30	細胞の構造と機能 生命を構成する基 本物質	<p>【授業の一般目標】 細胞の基本的構造を学び、それらと細胞機能、細胞増殖および分化機構との関 係を理解する。 生命を構成する基本物質の分子的構造と機能ならびにそれらの生体内代謝とそ の異常を理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 細胞の基本構造 (細胞膜、細胞内小器官) を説明できる。 2. 細胞の機能と、個々の細胞内小器官の役割を説明できる。 3. 生体を構成する基本物質を説明できる。 4. 細胞内での物質の代謝を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-1-1), C-1-3)</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 b 細胞・細胞内小器官の構造・機能</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ア 生体を構成する基本物質 イ 細胞の構造・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子的基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 *①アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。 *②糖質の構造、機能および代謝を説明できる。 *③脂質の構造、機能および代謝を説明できる。 *④生体内におけるエネルギー利用を説明できる。 *⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。 C-1-3) 細胞の構造と機能 *①細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能を説明できる。 *②細胞の分泌と吸収機構を説明できる。 *④細胞死 (壊死とアポトーシス) の基本的機序を説明できる。</p>	楠瀬 隆生
2016/04/20 (水) 3時限 13:00～14:30	遺伝子と遺伝 細胞のコミュニケー ション	<p>【授業の一般目標】 遺伝子の構造と機能および遺伝の基本的機序を理解する。 細胞間、細胞・マトリックス間の接着機序および細胞レベルでの情報伝達の仕 組みを理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 遺伝子の構造と機能を説明できる。 2. 遺伝情報の発現に至る各過程の機序を説明できる。 3. 細胞間、細胞・マトリックス間の接着機序を説明できる。 4. 細胞間の情報伝達の仕組みを理解する。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-1-2), C-1-4)</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 a 遺伝子、染色体</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p>	楠瀬 隆生

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/04/20 (水) 3時限 13:00～14:30	遺伝子と遺伝 細胞のコミュニケーション	歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ウ 細胞間情報伝達機構 エ 遺伝子、遺伝 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子の基盤 C-1-2) 遺伝子と遺伝 *①遺伝子(染色体)の構造とセントラルドグマを説明できる。 *②DNA複製と修復の機序を説明できる。 *③転写と転写調節の機序を説明できる。 *④翻訳の機序を説明できる。 *⑤遺伝性疾患の発生の機序を説明できる。 C-1-4) 細胞のコミュニケーション *①細胞の接着装置、細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。 *②受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカイン等による細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。 *③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を説明できる。	楠瀬 隆生
2016/04/27 (水) 3時限 13:00～14:30	身体を構成する組織、器官(組織学) 個体発生、器官発生	【授業の一般目標】 人体の初期発生、胚葉形成、器官形成について説明できる 鰓弓を理解できる。 人体を構成する主要な組織を説明できる。 【行動目標(SBOs)】 1. 個体発生と器官発生を概説できる。 2. 鰓弓の成立を説明できる 3. 鰓弓由来の器官組織を列挙できる 4. 内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。 【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 a 発育区分 (出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-2) 個体発生、器官発生 *①個体発生と器官発生を概説できる。 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3)-(1) 組織(上皮組織、結合組織、筋組織)【神経組織の構造と機能はC-2-3)-(5)神経系の項を参照】 *①上皮を形態的および機能的に分類できる。 *②皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。 *③腺を分泌物の性状、形態および分泌機構に基づいて分類できる。 *④結合組織の線維要素と細胞要素を説明できる。 *⑤硝子軟骨、弾性軟骨および線維軟骨の特徴を説明できる。 *⑥内軟骨性骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。 *⑦硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。 *⑧筋組織の構造と機能を説明できる。	鈴木 久仁博
2016/05/11 (水) 3時限 13:00～14:30	平常試験1-①	【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認 【行動目標(SBOs)】 1. これまでに行われた講義の内容を説明できる 【準備学修項目】 これまでの講義内容 【学修場所・媒体等】 【MCQ試験】302教室 4/13, 4/20, 4/27 講義範囲 【学修方略(LS)】 演習 【場所(教室/実習室)】 302教室	河相 安彦
2016/05/18 (水) 3時限 13:00～14:30	頭頸部解剖学 脳神経 振替日: 5月19日 (木) 14:40-16:10	【授業の一般目標】 頭頸部の構造を理解するために脳神経の分布に関する知識を習得する。 【行動目標(SBOs)】 1. 三叉神経の分布と機能を説明できる。 2. 顔面神経の分布と機能を説明できる。 3. 舌咽神経の分布と機能を説明できる。 【準備学修項目】 脳神経の番号と名称を説明できるようにしておく。	近藤 信太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/05/18 (水) 3時限 13:00～14:30	頭頸部解剖学 脳神経 振替日：5月19日 (木) 14:40-16:10	<p>【学修場所・媒体等】 302教室、マルチメディア併用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 f 頭頸部の神経（三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 1 頭頸部の構造 エ 頭頸部の神経</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *④三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2016/05/25 (水) 3時限 13:00～14:30	頭頸部解剖学 頭蓋骨 振替日：5月26日 (木) 14:40-16:10	<p>【授業の一般目標】 頭頸部の構造を理解するために頭蓋骨を観察し、形態に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 頭蓋底の構造を説明できる。 2. 上顎骨周囲の構造を説明できる。 3. 下顎骨の構造と顎関節の構造を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 頭蓋骨標本を事前に観察しておく。</p> <p>【学修場所・媒体等】 第三実習室で骨標本の観察を行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 e 頭蓋を構成する骨（神経頭蓋、内臓頭蓋）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 1 頭頸部の構造 ア 頭頸部の骨 イ 頭頸部の筋 エ 頭頸部の神経</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 *②咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。 *④三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明できる。</p>	松野 昌展 近藤 信太郎 佐々木 佳世子 五十嵐 由里子
2016/06/01 (水) 3時限 13:00～14:30	神経による恒常性の調節	<p>【授業の一般目標】 人体の恒常性が神経によってどのように調節されているかを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 神経の分類を説明できる。 2. 中枢神経と末梢神経の違いを説明できる。 3. 求心性神経と遠心性神経の違いと役割を説明できる。 4. 体性神経と自律神経の違いと役割を説明できる。 5. 自律神経の二重支配を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 神経細胞の構造と名称を復習しておく。</p> <p>【学修場所・媒体等】 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系</p>	吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/01 (水) 3時限 13:00～14:30	神経による恒常性の調節	キ 神経系<中枢・末梢神経系> 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 ク 感覚器系 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (5) 神経系 *②末梢神経系の機能分類 (体性神経系と自律神経系) を説明できる。 *③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 *④脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能 (呼吸、循環、体温) の調節中枢の働きを含む。】	吉垣 純子
2016/06/08 (水) 3時限 13:00～14:30	循環と呼吸の調節	【授業の一般目標】 循環と呼吸の調節メカニズムを学び、循環と呼吸の関連を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 血圧と心拍数の調節メカニズムを説明できる。 2. 圧受容器反射を説明できる。 3. 化学受容器反射を説明できる。 4. 外呼吸と内呼吸を説明できる。 5. 血液における酸素運搬を説明できる。 【準備学修項目】 血液におけるpH緩衝能について復習する。 血管および心臓の構造を復習する。 【学修場所・媒体等】 プリントを配布する。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 エ 循環器系<脈管系> 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 ウ 呼吸器系 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (3) 循環器系 *①心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激 (興奮) 伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】 *④血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。 C-2-3) - (7) 呼吸器系 *②肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】	吉垣 純子
2016/06/15 (水) 3時限 13:00～14:30	平常試験1-②	【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでに行われた講義の内容を説明できる 【準備学修項目】 これまでの講義内容 【学修場所・媒体等】 【MCQ試験】302教室 5/18, 5/25, 6/1, 6/8 講義範囲 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室	河相 安彦
2016/06/22 (水) 3時限 13:00～14:30	内分泌による代謝調節	【授業の一般目標】 内分泌による人体の調節機構を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 内分泌腺と標的臓器の関係を説明できる。 2. ホルモンによる糖代謝の調節機構を説明できる。 3. ホルモンによるカルシウム代謝の調節機構を説明できる。 4. ホルモンによる体液調節を説明できる。 【準備学修項目】 糖および脂質の代謝経路を復習する。	吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/06/22 (水) 3時限 13:00～14:30	内分泌による代謝調節	骨吸収と石灰化について復習する。 【学修場所・媒体等】 プリントを配布する。 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 ケ 内分泌系 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 オ 泌尿器系 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (8) 内分泌系 *①各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】 C-2-3) - (9) 泌尿器系 *②体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロン働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】	吉垣 純子
2016/06/29 (水) 3時限 13:00～14:30	感染と免疫 (微生物)	【授業の一般目標】 細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の特徴、感染機構および病原性を理解する。 滅菌、消毒、化学療法および振興・再興感染症について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. □細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 2. □細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構を説明できる。 3. □細菌、真菌、ウイルスがヒトに対して示す病原性を説明できる。 4. □清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。 5. □化学療法の目的、原理、作用機序および薬剤耐性機序を説明できる。 【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-3-1) 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 イ 病原微生物 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染 *①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。 *②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 *③清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。 *④化学療法の目的、原理、作用機序および薬剤耐性機序を説明できる。 *⑤新興・再興感染症について説明できる。 *⑥院内感染について、原因、予防法について説明できる。	續橋 治
2016/07/06 (水) 3時限 13:00～14:30	免疫	【授業の一般目標】 感染防御免疫のしくみを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明できる。 3. 細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。 4. 自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 5. アレルギーの分類を説明できる。 6. 自己免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 7. ワクチンの分類と意義を説明できる。 【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 【学修方略 (L S)】	落合 智子 小林 良喜

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/07/06 (水) 3時限 13:00～14:30	免疫	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 f 免疫（自然免疫、獲得免疫）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 3 免疫 ア 免疫系臓器、免疫担当細胞 イ 免疫応答とその調節 ウ 自然免疫 エ 獲得免疫</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-2) 免疫 *①自然免疫と獲得免疫について説明できる。 *②細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】 *③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 *⑤アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】 *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 *⑦ワクチンの意義と問題点を説明できる。</p>	落合 智子 小林 良喜
2016/07/13 (水) 3時限 13:00～14:30	薬物の作用機序	<p>【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬物と医薬品、薬理作用、薬物の副作用と有害作用について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 薬物と医薬品を説明できる。 2. 薬理作用を説明できる。 3. 薬物の作用機序を説明できる。 4. 薬物の副作用と有害作用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲（c-5 生体と薬物）</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 e 薬物の作用部位</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 d 薬物の効果に影響する因子（年齢、個体差、種差、性差、プラセボ効果） f 薬物の反復投与 h 薬物の併用（協力作用、拮抗作用） i 薬物の副作用・有害作用（薬物アレルギー（アナフィラキシーショック）、皮膚障害、血液障害、消化器障害、肝障害、腎障害、呼吸器障害、中央神経障害） k 薬物の保管・管理 a 薬物作用の種類（局所作用、全身作用、直接作用、間接作用）</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 生体と薬物 C-5-1) 薬物と医薬品 *①医薬品の分類を説明できる。 *②毒薬、劇薬および麻薬等の表示と保管を説明できる。 C-5-2) 薬理作用 *①薬物療法（原因療法、対症療法）を説明できる。【歯科臨床において適用される薬物の特徴を含む。】 *②薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 *③薬物の作用機序を説明できる。 *④薬理作用を規定する要因（用量と反応、感受性）を説明できる。 *⑤薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる。 *⑥薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。 C-5-4) 薬物の副作用と有害作用 *①薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。</p>	松本 裕子
2016/07/20 (水) 3時限 13:00～14:30	歯科材料・器械の 所要性質	<p>【授業の一般目標】 歯科材料および歯科用器械・器具の適切な取り扱い法を理解するために、それらの基本的性質について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯科材料の物理的、機械的、化学的および生物学的性質について説明できる。 2. 応力-ひずみ曲線について説明できる。</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/07/20 (水) 3時限 13:00～14:30	歯科材料・器械の 所要性質	3. 歯科用器械・器具の特徴について説明できる。 【準備学修項目】 歯科材料を素材別に分類することができる。 歯科用器械の用途を述べるができる。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 マ 歯科材料 a 基本的性質 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅺ 歯科材料と歯科医療機器 1 生体材料の科学 ア 有機材料 イ セラミック材料 ウ 金属材料 エ 複合材料 オ 物理的性質 カ 機械的性質 キ 化学的性質 ク 生物学的性質と生体安全性 2 診療用器械 エ レーザー装置 11 セラミックスの成形技術・機器 エ CAD/CAM 【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-1 素材と器械・器具の所要性質 *①高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的ななものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】 *②生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。 *③生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 *④歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。	谷本 安浩
2016/09/07 (水) 3時限 13:00～14:30	平常試験 1-③	【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの講義内容を説明できる。 【準備学修項目】 これまでの講義内容 【学修場所・媒体等】 【筆記試験】302教室 6/22、6/29、7/6、7/13、7/20 講義範囲 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室	河相 安彦
2016/09/26 (月) 2時限 10:40～12:10	オリエンテーショ ン 成績評価法の 確認 CBT, OSCE についての説明	【授業の一般目標】 総合講義4の目的を理解する 【行動目標 (SBOs)】 1. webクラスを用いて学習をすすめることができる。 【準備学修項目】 特になし 【学修場所・媒体等】 302教室 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/09/26 (月) 3時限 13:00～14:30	プレテスト	【授業の一般目標】 現在の知識の確認 【準備学修項目】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【学修場所・媒体等】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/09/26 (月) 3時限 13:00～14:30	プレテスト	302教室 PC 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室	三田村 佐智代 布施 恵 吉野 祥一 青木 伸一郎 河島 睦 石井 智浩 榎本 豊
2016/09/27 (火) 3時限 13:00～14:30	顎運動とその疾患	【授業の一般目標】 咀嚼運動を理解するために、顎反射による調節機構を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 顎反射を分類できる。 2. 下顎張反射の反射弓を説明できる。 3. 開口反射を誘発する刺激を列挙できる。 4. 歯根膜咬筋反射の意義を説明できる。 【準備学修項目】 反射弓の構成要素を理解しておく。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 b 口腔の機能 (咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発音と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (5) 神経系 *⑥反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。	加藤 治
2016/09/28 (水) 2時限 10:40～12:10	顎運動とその疾患	【授業の一般目標】 下顎運動を障害する疾患を治療できるようになるために、顎関節、咀嚼筋に生じる異常を理解し、その原因となる疾患に関する知識を習得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 顎関節症による顎運動の異常について理解する。 2. ブラキシズムの特徴とその対応について理解する。 3. 口腔ディスクネジエの特徴とその対応について理解する。 【準備学修項目】 顎関節の正常構造と機能。咀嚼筋の正常構造と機能 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 カ 顎関節症・口腔顔面痛 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 キ ブラキシズム 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 顎関節疾患 *②顎関節疾患 (外傷、脱臼、炎症、顎関節症、顎関節強直症) の症状、診断法および治療法を概説できる。	小見山 道
2016/09/29 (木) 3時限 13:00～14:30	顎運動の解剖学	【授業の一般目標】 顎運動を正確に説明するために頭蓋骨の構造を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 下顎骨の構造を説明できる。 2. 舌骨の構造を説明できる。 3. 咀嚼筋の構造を説明できる。 4. 舌骨筋群の構造を説明できる。 【準備学修項目】 咀嚼筋の起始-停止を説明できる。 【学修場所・媒体等】 302教室、頭蓋骨演習、マルチメディアの併用	松野 昌展

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/09/29 (木) 3時限 13:00~14:30	顎運動の解剖学	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 1 頭頸部の構造 イ 頭頸部の筋</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 1 頭頸部の構造 ア 頭頸部の骨 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 オ 咀嚼</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 *②咀嚼筋、表情筋、前頸筋の構成と機能を説明できる。</p>	松野 昌展
2016/10/03 (月) 2時限 10:40~12:10	顎運動とその疾患	<p>【授業の一般目標】 下顎運動を障害する疾患を理解し、補綴治療に必要な顎運動に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. コアカリキュラムのE-2-4)-(6) 顎関節疾患を達成する。 2. 補綴治療に必要な顎運動について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 顎関節疾患、下顎運動、咬合様式、顎運動調節</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室、PC、プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 14 顎関節疾患 サ 顎関節症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 3 補綴装置の要件 カ 咬合様式 5 部分床義歯による治療 エ 顎間関係の記録 オ 咬合器装着・調節 6 全部床義歯による治療 エ 顎間関係の記録 オ 咬合器装着・調節</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(6) 顎関節疾患 *①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) *⑧咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。 *⑨下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。</p>	石井 智浩
2016/10/03 (月) 3時限 13:00~14:30	炎症の病理学	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、定義、徴候、分類及び病理組織学的特徴について学習する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 炎症の定義を述べることができる。 2. 炎症性細胞の種類と特徴について説明できる。 3. 炎症の5徴候について説明できる。 4. 炎症の分類と病理組織学的特徴について説明できる。 5. 炎症の代表的疾患の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・炎症の定義 ・炎症の分類</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室、マルチメディアの併用</p>	宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/03 (月) 3時限 13:00～14:30	炎症の病理学	<p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 ア 炎症の概念 イ 炎症の原因 ウ 炎症に関与する細胞 エ 炎症の機序・病態 オ 急性炎症、慢性炎症 カ 肉芽腫性炎の種類・特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 *②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 *③滲出性炎の種類と病理組織学的特徴および経時的変化を説明できる。 *④肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的変化を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦
2016/10/05 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症性ケミカルメディエーター	<p>【授業の一般目標】 炎症の発症機序を理解するために、炎症性ケミカルメディエーターの種類と特徴を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 炎症性ケミカルメディエーターの種類を列挙できる。 2. アミン類やキニン類の合成と特徴を説明できる。 3. サイトカインの定義と種類を説明できる。 4. エイコサノイドおよびPAFの合成を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 炎症の起こる原因と臨床症状をインターネットで調査すること。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 5 炎症 エ 炎症の機序・病態</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】</p>	平塚 浩一
2016/10/06 (木) 3時限 13:00～14:30	疼痛の分類と診断	<p>【授業の一般目標】 疼痛を有する患者を適確に診断できるように、疼痛の症状や分類の仕方を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 疼痛の定義を説明できる。 2. 疼痛の種類を分類できる。 3. 疼痛の症候を説明できる。 4. 疼痛の診査方法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・疼痛の分類 ・疼痛の症候 ・疼痛の診査方法</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 8 疼痛 ア 侵害受容性疼痛</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態</p>	多田 充裕

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/06 (木) 3時限 13:00～14:30	疼痛の分類と診断	<p>8 疼痛 イ 神経障害性疼痛 ウ 心因性疼痛</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-6) 疼痛 *①疼痛の種類を説明できる。【関連痛を含む】] ③疼痛の制御機構・方法の概念を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。</p>	多田 充裕
2016/10/11 (火) 3時限 13:00～14:30	炎症・痛みとその疾患	<p>【授業の一般目標】 歯周病の病態と徴候について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯周病の炎症について理解する。 2. 歯周病の炎症の原因を理解する。 3. 歯周病の痛みと臨床症状を理解する。 4. 歯周病の病態を理解する。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論III 歯・歯髄・歯周組織の疾患 8 成人の歯周病 ウ 歯周炎</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。</p>	吉野 祥一
2016/10/12 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症・痛みとその疾患	<p>【授業の一般目標】 痛みの成立を理解するために、感覚の種類による伝導路の違いを学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 皮膚感覚、深部感覚および特殊感覚の違いを説明できる。 2. 受容器と感覚神経の関係について説明できる。 3. 口腔における痛みの伝導路を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 感覚の分類を整理しておく。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 b 口腔の機能 (咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発音と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (4) 感覚器系 *①皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。</p>	加藤 治
2016/10/13 (木) 3時限 13:00～14:30	歯髄・根尖性歯周組織における炎症。	<p>【授業の一般目標】 歯髄・根尖性歯周組織における炎症を理解するために歯髄炎・根尖性歯周炎の病因・病態を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯髄炎について説明できる。 2. 歯髄炎の病因・病態について説明できる。 3. 根尖性歯周炎の病因・病態について説明できる。</p>	岡部 達

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/13 (木) 3時限 13:00～14:30	歯髄・根尖性歯周組織における炎症。	<p>【準備学修項目】 歯の構造を説明できる。 炎症について説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 P C</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 5 成人の歯髄・根尖性歯周組織疾患 キ 根尖性歯周組織疾患が全身の健康に及ぼす影響</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3)-(2) 歯髄・根尖性歯周組織疾患の診断と治療 *①歯髄・根尖性歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 *③歯髄・根尖性歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。 *⑧歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。</p>	岡部 達
2016/10/17 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目】 これまでの講義内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験</p> <p>【学修方略（L S）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/10/17 (月) 3時限 13:00～14:30	プレテスト	<p>【授業の一般目標】 現在の知識の確認</p> <p>【準備学修項目】 これまでの講義内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験</p> <p>【学修方略（L S）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/10/18 (火) 3時限 13:00～14:30	微生物感染症と対策	<p>【授業の一般目標】 微生物と感染症の関連性および感染対策方法の原理を学修する。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 細菌、ウイルス、真菌の基本的性状を説明できる。 2. 細菌、ウイルス、真菌を起因とする感染症を説明できる。 3. 滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 コアカリC-3-1)</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 イ 病原微生物</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 エ 感染症 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 1 1 感染症対策 イ 感染症対策</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染</p>	栗原 紀子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/18 (火) 3時限 13:00~14:30	微生物感染症と対策	<p>*①細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状を説明できる。</p> <p>*②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。</p> <p>*③清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。</p>	栞原 紀子
2016/10/19 (水) 2時限 10:40~12:10	免疫系	<p>【授業の一般目標】 自然免疫と獲得免疫を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 自然免疫と獲得免疫の流れを説明できる。 2. 自然免疫で働く細胞と分子を説明できる。 3. 体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。 4. アレルギーを説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-2-3), C-3-1), 2), E-2-4), E-3-2)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 f 免疫 (自然免疫、獲得免疫)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-2) 免疫 *①自然免疫と獲得免疫について説明できる。 *②細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。 】 *③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 *⑤アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】 *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。 *⑦ワクチンの意義と問題点を説明できる。</p>	落合 智子
2016/10/20 (木) 3時限 13:00~14:30	3. 微生物・感染・免疫とその疾患	<p>【授業の一般目標】 コアカりに記載されている内容を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカりに記載されている内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-2-3), C-3-1), 2), E-2-4), E-3-2)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 3 軟組織の炎症 エ 所属リンパ節の炎症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *①歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。 *②歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。 *③歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。 *⑤口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。 *⑥歯痛の機序を説明できる。</p>	久山 佳代
2016/10/24 (月) 2時限 10:40~12:10	3. 微生物・感染・免疫とその疾患	<p>【授業の一般目標】 コアカりに記載されている学習内容を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカりに記載されている学習内容を理解する。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-2-3), C-3-1), 2), E-2-4), E-3-2)</p> <p>【学修場所・媒体等】</p>	大口 純人

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/24 (月) 2時限 10:40～12:10	3. 微生物・感染・免疫とその疾患	<p>【講義】302 教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 3 軟組織の炎症 イ 口腔軟組織の炎症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症とアレルギー *①菌性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 *②急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 *③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 *④口唇・口腔・顎顔面領域の特異性炎の種類と特徴を説明できる。 *⑤菌血症および菌性病巣感染の病態を説明できる。 *⑥一般的な消炎療法の意義と特徴を説明できる。 *⑦主な炎症 (舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨髄炎、菌性上顎洞炎等) を概説できる。 ⑧菌性病巣感染の成立機序、症状、検査法および治療法を説明できる。 ⑨消炎手術を概説できる。</p>	大口 純人
2016/10/24 (月) 3時限 13:00～14:30	4. 歯質・歯の欠損と歯科材料	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 D-1, D-2, E-3-2), 3), 4)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯の硬組織疾患の治療 イ 永久歯の直接修復法</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-1 素材と器械・器具の所要性質 *①高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】 *②生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。 *③生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 *④歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。</p>	岩井 啓寿
2016/10/25 (火) 3時限 13:00～14:30	歯質・歯の欠損と歯科材料	<p>【授業の一般目標】 臨床実習を円滑に行えるための補綴学の基礎的知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 下顎位と咬合様式について説明できる。 2. クラウンブリッジによる補綴装置の特徴を説明できる。 3. クラウンブリッジの製作方法を述べることができる。</p> <p>【準備学修項目】 これまでに受けた講義と実習の内容を復習する。</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 ア 下顎位、下顎運動</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 イ 咬合接触、咬合様式</p>	田中 孝明

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/25 (火) 3時限 13:00～14:30	歯質・歯の欠損と 歯科材料	<p>歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害</p> <p>4 クラウンブリッジによる治療 ア 歯冠補綴装置の選択 ウ 支台歯形成</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 *②クラウンおよびブリッジの種類、特徴および製作法を説明できる。【ポンティックの選択を含む。】 *⑥クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。</p>	田中 孝明
2016/10/26 (水) 2時限 10:40～12:10	歯質・歯の欠損と 歯科材料	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. デジタルデンティストリーについて述べることができる。 2. 正常有歯顎者の咬合関係を述べるができる。 3. 下顎運動に関与する筋を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目】 今までに学んだコアカリの範囲 D-1, D-2</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 イ 咬合接触、咬合様式</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論XI 歯科材料と歯科医療機器 8 歯冠修復用材料 カ ガラスセラミック</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-1 素材と器械・器具の所要性質 *④歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。 D-2 成形法と成形用材料 *⑥レジン、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 *⑥クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。</p>	浅野 隆
2016/10/27 (木) 3時限 13:00～14:30	歯質・歯の欠損と 歯科材料	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 D-1, D-2</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 マ 歯科材料 a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 マ 歯科材料 b 印象材 c 模型材 d 修復用材料 e 合着・接着材 f 義歯用材料 歯科医学総論 総論XI 歯科材料と歯科医療機器</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/27 (木) 3時限 13:00～14:30	歯質・歯の欠損と 歯科材料	<p>1 2 金属の成形技術・機器 イ 石膏系鋳型材 ウ リン酸塩系鋳型材 エ 鋳造精度 オ 鋳造欠陥</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-2 成形法と成形用材料 *①修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。 *②歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。 *③印象材の種類と特性を説明できる。 *④歯科用石膏の種類と特性を説明できる。 *⑤ワックスの種類と特性を説明できる。 *⑥レジン・重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【歯科用レジン・金属・セラミックスの種類、用途および特性を含む。】 *⑦接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。</p>	谷本 安浩
2016/10/31 (月) 2時限 10:40～12:10	歯質・歯の欠損と 歯科材料	<p>【授業の一般目標】 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴学的な診査・診断および治療法に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリキュラムのE -3-4)-(2) 可撤性義歯の各項目を達成することができる。 2. 国家試験出題基準の各論V-5の項目を達成することができる。 3. 国家試験出題基準の各論V-6の項目を達成することができる。</p> <p>【準備学修項目】 コアカリキュラムのE -3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯)の各項目について</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室、PC、プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 5 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 5 部分床義歯による治療 イ 印象採得 エ 顎間関係の記録 カ サベイング キ フレームワークの製作 コ 蠟義歯の試適 6 全部床義歯による治療 ア 義歯の設計 イ 印象採得 エ 顎間関係の記録 ク 蠟義歯の試適 7 オーバーデンチャー ア 基本構造</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯) *②可撤性義歯の種類、目的および意義を説明できる。 *③可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。 *④可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。 *⑤可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 *⑥可撤性義歯の構成要素を説明できる。 *⑦印象採得の種類と方法を説明できる。 *⑧咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。 *⑨下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 *⑩可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。 *⑪可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。</p>	石井 智浩
2016/10/31 (月) 3時限 13:00～14:30	歯内療法に用いる 機材・薬剤	<p>【授業の一般目標】 適切な歯内療法を行えるようになるために、歯内療法に用いる機材・薬剤について修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯内療法の処置の流れを説明できる。 2. 歯内療法に用いる薬剤について説明できる。 3. 外科的歯内療法の種類・適応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 歯の構造について説明できる。</p>	岡部 達

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/10/31 (月) 3時限 13:00~14:30	歯内療法に用いる 機材・薬剤	<p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 6 歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療 オ 根管処置、感染根管治療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖性歯周組織疾患の診断と治療 *①歯髄・根尖性歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 *②根管充填の目的、時期および方法を説明できる。 *⑥歯内外科手術の種類と適応症を説明できる。</p>	岡部 達
2016/11/01 (火) 3時限 13:00~14:30	平常試験	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目】 これまでの講義内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験</p> <p>【学修方略（L S）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/11/02 (水) 2時限 10:40~12:10	自主学習 個人面談	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 これまでの学習内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 P C</p> <p>【学修方略（L S）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/11/07 (月) 2時限 10:40~12:10	プレテスト	<p>【授業の一般目標】 現在の知識の確認</p> <p>【準備学修項目】 これまでの学習内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室 P C W e b クラスを用いた試験</p> <p>【学修方略（L S）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/11/07 (月) 3時限 13:00~14:30	五大栄養素と代謝経路	<p>【授業の一般目標】 身体構成成分を代謝経路を理解するために、五大栄養素の基本的な構造や特徴を学ぶ。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. タンパク質の構造と特徴を説明できる。 2. 炭水化物の種類と特徴を説明できる。</p>	平塚 浩一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/11/07 (月) 3時限 13:00~14:30	五大栄養素と代謝経路	<p>3. 脂質の構造と特徴を説明できる。 4. ビタミンの種類とその欠乏症を説明できる。 5. 五大栄養素の代謝経路を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 3年生の栄養学で学んだ内容（プリント）を復習しておくこと。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ア 生体を構成する基本物質</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子的基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 *①アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。 *②糖質の構造、機能および代謝を説明できる。 *③脂質の構造、機能および代謝を説明できる。 *④生体内におけるエネルギー利用を説明できる。 *⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。</p>	平塚 浩一
2016/11/08 (火) 3時限 13:00~14:30	全身疾患・薬物と歯科治療	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 出血の原因、種類および転帰を説明できる。 2. 血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 3. 塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 4. ショックの成因と種類を説明できる。 5. 薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。 6. 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 7. 薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-1-1), C-2-3), C-4-3), C-5-1), 2), 3), 4), E-1-3), 5), E-2-4)</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 エ 循環器系<脈管系></p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 ケ 内分泌系 総論Ⅷ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 オ 診察 カ 評価</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④塞栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。 *⑥浮腫の原因とその転帰を説明できる。 *⑦ショックの成因と種類を説明できる。 C-5 生体と薬物 C-5-2) 薬理作用 *⑥薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。 C-5-3) 薬物の適用と体内動態 *①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 *②薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。 C-5-4) 薬物の副作用と有害作用 *①薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。</p>	卯田 昭夫
2016/11/09 (水) 2時限 10:40~12:10	薬物動態	<p>【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬物の適用方法と薬物動態について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 2. 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。</p>	松本 裕子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/11/09 (水) 2時限 10:40～12:10	薬物動態	<p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 (c-5 生体と薬物)</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 c 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 b 薬物の適用方法 歯科医学総論 総論Ⅹ 治療 9 薬物療法 イ 適用方法と剤形 ウ 薬物動態 ク 服薬指導 コ 薬物適用の注意</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 生体と薬物 C-5-3) 薬物の適用と体内動態 *①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 *②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) を説明できる。</p>	松本 裕子
2016/11/10 (木) 3時限 13:00～14:30	画像情報と病理組織診断	<p>【授業の一般目標】 適正な病理組織診断を実施するために、画像情報を要する疾患の病理組織学的特徴について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 顎骨に生じる嚢胞性疾患の病理組織学的特徴について説明できる。 2. 歯原性腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。 3. 顎骨に生じる非歯原性疾患 (腫瘍性及び非腫瘍性疾患) の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 ・嚢胞の種類 ・腫瘍の種類 ・歯原性腫瘍の種類</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室, マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 1 腫瘍、腫瘍類似疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 k 嚢胞 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 カ 嚢胞 キ 腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *②顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *⑤歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑦口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法 (組織診、画像診断) および治療法を説明できる。 *⑧腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。</p>	宇都宮 忠彦
2016/11/14 (月) 2時限 10:40～12:10	顎口腔領域の疾患・画像検査・放射線	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の嚢胞および腫瘍の画像診断を適切に行うために、画像検査法の基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 顎・口腔領域の嚢胞の特徴的な画像所見を説明できる。 2. 顎・口腔領域の腫瘍の特徴的な画像所見を説明できる。</p>	川島 雄介

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/11/14 (月) 2時限 10:40～12:10	顎口腔領域の疾患・ 画像検査・放射線	<p>【準備学修項目】</p> <p>1) 口内法エックス線検査の種類および適応を説明できる。 2) パノラマエックス線検査の適応を説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IX 検査 2 画像検査 セ MRI</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査 *⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法 (CT)、磁気共鳴撮像法 (MRI) および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。 *⑦口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。</p>	川島 雄介
2016/11/14 (月) 3時限 13:00～14:30	顎口腔領域の疾患・ 画像検査・放射線	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の損傷および炎症の画像診断を適切に行うために、画像検査法の基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 顎・口腔領域の損傷の特徴的な画像所見を説明できる。 2. 顎・口腔領域の炎症の特徴的な画像所見を説明できる</p> <p>【準備学修項目】</p> <p>1) 口内法エックス線検査の種類および適応を説明できる。 2) パノラマエックス線検査の適応を説明できる。</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 8 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷 サ 損傷に対する治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査 *⑦口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影を行い、読影できる。 *⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法 (CT)、磁気共鳴撮像法 (MRI) および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	村松 輝晃
2016/11/15 (火) 3時限 13:00～14:30	口腔領域の疾患 (外傷)・画像検査・放射線	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. コアカリに記載されている学習項目を理解する 2. インプラント治療のための検査・治療計画を理解する。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-4-1), 2), E-1-2), E-2-4), E-4-2)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室にてマルチメディアを用いた講義</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 ウ インプラントの埋入の治療計画</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療</p>	北川 剛至

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/11/15 (火) 3時限 13:00～14:30	口腔領域の疾患 (外傷)・画像検査・放射線	<p>イ 補綴装置の設計</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント *①デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 *②デンタルインプラントの基本構造を説明できる。 ③デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。 ④デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。</p>	北川 剛至
2016/11/16 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔領域の嚢胞性疾患	<p>【授業の一般目標】 顎骨内に発生する歯原性・非歯原性嚢胞や軟組織嚢胞について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目を理解する 2. 顎骨内嚢胞を理解する。 3. 顎骨内に発生する歯原性嚢胞・非歯原性嚢胞を理解する。 4. 軟組織に発生する嚢胞を理解する。 5. 嚢胞を診断ができる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-4-1), 2), E-1-2), E-2-4), E-4-2)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 4 軟組織に発生する嚢胞 ク 嚢胞に対する治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *②顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *③軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *④口唇・口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の一般的な症状、診断法および治療法を説明できる。 *⑤歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑦口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法 (組織診、画像診断) および治療法を説明できる。</p>	西村 均 濱野 美緒
2016/11/17 (木) 3時限 13:00～14:30	口腔領域の疾患に用いる薬物	<p>【授業の一般目標】 口腔領域における薬物療法を適切に行うために、薬物の作用機序、薬物の副作用と有害作用、薬物の相互作用について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 抗菌薬・抗ウイルス薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。 2. 鎮痛薬・抗炎症薬を列挙し、その作用機序と副作用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 (c-5 生体と薬物)</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 5 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 e 薬物の作用部位</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 5 治療の基礎・基本手技 ヒ 薬物療法 i 薬物の副作用・有害作用 (薬物アレルギー (アナフィラキシーショック)、皮膚障害、血液障害、消化器障害、肝障害、腎障害、呼吸器障害、中央神経障害) 歯科医学総論 総論 X 治療 9 薬物療法 オ 薬物の作用部位・作用機序 ケ 薬物の副作用・有害作用・薬物相互作用 サ 鎮痛薬 シ 抗炎症薬 ス 抗感染症薬</p>	松本 裕子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/11/17 (木) 3時限 13:00~14:30	口腔領域の疾患に用いる薬物	<p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 生体と薬物 C-5-2) 薬理作用 *③薬物の作用機序を説明できる。 C-5-4) 薬物の副作用と有害作用 *①薬物の一般的副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。</p>	松本 裕子
2016/11/21 (月) 2時限 10:40~12:10	口腔領域の疾患(炎症・嚢胞)	<p>【授業の一般目標】 デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 デンタルインプラントの治療法(外科処置)について説明できる。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 E-3-4)-(3)①, ②, ③, ④</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 オ 外科処置</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(3) デンタルインプラント *①デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 ③デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。 ④デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。</p>	玉木 大之
2016/11/21 (月) 3時限 13:00~14:30	平常試験	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目】 これまでの講義内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験</p> <p>【学修方略(LS)】 演習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/11/22 (火) 3時限 13:00~14:30	プレテスト	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認</p> <p>【準備学修項目】 これまでの学習内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験</p> <p>【学修方略(LS)】 その他</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/11/24 (木) 3時限 13:00~14:30	8. 口腔領域の疾患(腫瘍)、小手術の基本手技、救急処置	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-4-5), E-2-2), 4)</p>	大峰 浩隆

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/11/24 (木) 3時限 13:00～14:30	8. 口腔領域の疾患(腫瘍)、小手術の基本手技、救急処置	<p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 イ 腫瘍発生の病因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *⑤歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑦口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法(組織診、画像診断)および治療法を説明できる。 *⑩前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑪前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 *⑫口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。 *⑧腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。 *⑨エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑬口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。</p>	大峰 浩隆
2016/11/28 (月) 2時限 10:40～12:10	8. 口腔領域の疾患(腫瘍)、小手術の基本手技、救急処置	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-4-5), E-2-2), 4)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 イ 腫瘍発生の病因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *⑤歯原性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑥非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。 *⑦口唇・口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の一般的な症状、診断法(組織診、画像診断)および治療法を説明できる。 *⑩前癌病変(白板症、紅板症)の特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑪前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 *⑫口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。 *⑧腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。 *⑨エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。 *⑬口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類、症状および治療法を説明できる。</p>	伊藤 耕
2016/11/28 (月) 3時限 13:00～14:30	救急処置	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。 2. 意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 3. 気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 4. 気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 5. 胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。 6. 救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 E-1-4), E-1-5)</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】</p>	卯田 昭夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/11/28 (月) 3時限 13:00~14:30	救急処置	<p>歯科医学総論 総論X 治療 3 救急医療 ウ 成人に対する一次救命処置</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 3 救急医療 ア 乳児に対する一次救命処置 イ 小児に対する一次救命処置 エ 高度な気道管理 オ 成人・小児に対する二次救命処置 カ 窒息・誤飲・誤嚥に対する対応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *①歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。 *②意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 *③気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 *④気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 *⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。 *⑥救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。</p>	卯田 昭夫
2016/11/29 (火) 3時限 13:00~14:30	8. 口腔領域の疾患(腫瘍)小手術の基本手技 救急処置	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 E-1-4), E-1-5)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論X 治療 3 救急医療 ウ 成人に対する一次救命処置</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *①歯科治療時の全身合併症(偶発症)を説明できる。 *②意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。 *③気道閉塞および気道確保法を説明できる。【誤嚥・誤飲時の症状と対応を含む】 *④気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 *⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器(AED)の操作を実施できる。 *⑥救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。</p>	大峰 浩隆
2016/11/30 (水) 2時限 10:40~12:10	自主学習 個人面談	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 これまでの学習内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略(LS)】 その他</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/12/01 (木) 3時限 13:00~14:30	口腔領域の疾患(唾液腺疾患・粘膜疾患)	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1.1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 E-2-4)-(4)</p>	遠藤 弘康

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/12/01 (木) 3時限 13:00～14:30	口腔領域の疾患 (唾液腺疾患・粘 膜疾患)	<p>【学修場所・媒体等】 302 教室 P C</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 6 口腔粘膜疾患 リ 口腔粘膜疾患に対する治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 6 口腔粘膜疾患 オ 天疱瘡 カ 類天疱瘡 キ 表皮水疱症 チ 口腔扁平苔癬</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 *①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 *②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。</p>	遠藤 弘康
2016/12/05 (月) 2時限 10:40～12:10	9. 口腔領域の疾患 (唾液腺疾患・粘 膜疾患等)	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-4-1), 2), E-1-2), E-2-4), E-4-2)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 P C</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 2 口腔・顎・顔面の構造 カ 唾液腺</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口唇・口腔の基本構造と機能 *④唾液の性状と役割を説明できる。【構成成分とその機能を含む。】 *⑤唾液腺の構造と機能を説明できる。【分泌調節を含む。】 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 唾液腺疾患 *①唾石症の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 *②唾液腺炎の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。 *③唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 *④流行性耳下腺炎の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。 *⑤Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。</p>	久山 佳代
2016/12/05 (月) 3時限 13:00～14:30	自学自習	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する</p> <p>【準備学修項目】 これまでの学習項目</p> <p>【学修方略 (L S)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 大口 純人 岡本 康裕 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 吉野 祥一 青木 伸一郎 榎本 豊 石井 智浩 河島 睦
2016/12/06 (火) 3時限 13:00～14:30	歯原性腫瘍の病理学	<p>【授業の一般目標】 適正な病理組織診断を実施するために、歯原性腫瘍の病理組織学的特徴と鑑別診断について学習する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】</p>	宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/12/06 (火) 3時限 13:00～14:30	歯源性腫瘍の病理学	<p>1. 歯源性腫瘍の分類について、発生学及び病理組織学的見地を基に説明できる。 2. 歯源性腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。 3. 歯源性腫瘍と嚢胞との病理組織学的鑑別事項について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 歯源性腫瘍の分類</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室, マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の病因・病態 キ 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 11 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 ア 歯原性良性腫瘍 イ 歯原性悪性腫瘍 オ 骨関連病変 キ 線維骨性病変 ク 巨細胞性病変</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *①顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *②顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を列挙できる。 *⑤歯源性腫瘍の種類と特徴を列挙できる。</p>	宇都宮 忠彦
2016/12/07 (水) 2時限 10:40～12:10	医療面接・医療コミュニケーション	<p>【授業の一般目標】 全人的医療を実践するために、歯科患者の心理特性、効果的な会話、患者から効率的に情報収集、効果的な会話スキルに関する知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 医療面接の目的を説明できる 2. 医療面接で行う具体的な内容を説明できる。 3. 医療面接の4要素 (尋ねる, 聴く, 答える, 観察する) について説明できる。 4. コミュニケーションスキルを列挙し説明できる。 5. 非言語的コミュニケーションを説明できる。 6. 基本的な医療者の態度について説明できる。 7. 聴く態度の重要性について説明できる。 8. 患者とのよいラポールを確立するための方法を説明できる。 9. 信頼関係を確立するための医療面接スキルを説明できる。 10. OSCE (試験) の実施の仕方を概説できる。</p> <p>【準備学修項目】 一般的なコミュニケーションの基礎について説明できる。 医療におけるコミュニケーションの重要性について説明できる。 OSCE (試験) の意味を概説できる。</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 8 医療面接 ア 意義, 目的 a 医療情報の収集・提供</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 8 医療面接 ア 意義, 目的 b 患者歯科医師関係の確立</p> <p>【コアカリキュラム】 F 臨床実習 F-1 医療面接 ②医療面接における基本的なコミュニケーションができる。</p>	岡本 康裕
2016/12/08 (木) 3時限 13:00～14:30	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として必要な医の倫理, 治験の流れを把握し, 歯科医師法, 医療法について理解し, 修得できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科医師として必要な医の倫理, 治験の流れを説明できる。 2. 歯科医師法, 医療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲</p>	有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/12/08 (木) 3時限 13:00~14:30	11. 口腔衛生・関連法規	<p>B-1, B-2-1), 2), 3), B-3-1), 2), B-4-1), 2), 3)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理、生命倫理 b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、ヒポクラテスの誓い</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理、生命倫理 a 患者の人権と医療 2 社会と歯科医療 ウ 保健・医療・福祉・介護の制度 a 歯科医師法 e 医療法</p> <p>【コアカリキュラム】 A 基本事項 A-3 歯科医師の責務 *⑤歯科医師の法的義務を列挙できる。 A-4 インフォームドコンセント *①インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-1) 歯科医師法・関係法規 *①歯科医師法を概説できる。 *②医療法を概説できる。 *④医師法、薬剤師法および保健師助産師看護師法を概説できる。</p>	有川 量崇
2016/12/12 (月) 2時限 10:40~12:10	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 B-1, B-2-1), 2), 3), B-3-1), 2), B-4-1), 2), 3)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 a 概念</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *⑦ノーマライゼーションの考え方を説明できる。 *⑧地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。 *⑩地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。 B-1 健康の概念 *①健康の概念を説明できる。 *②口腔と全身の健康との関連を説明できる。 *③疾病の概念、種類および予防を概説できる。</p>	田口 千恵子
2016/12/12 (月) 3時限 13:00~14:30	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 B-1, B-2-1), 2), 3), B-3-1), 2), B-4-1), 2), 3)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p>	田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/12/12 (月) 3時限 13:00~14:30	11. 口腔衛生・関連法規	302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 13 環境保健 ア 環境と適応 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *⑦ノーマライゼーションの考え方を説明できる。 B-2-4) 環境と健康 *①環境による健康への影響を説明できる。 *②環境基準と環境汚染を説明できる。	田口 千恵子
2016/12/13 (火) 3時限 13:00~14:30	11. 口腔衛生・関連法規	【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する 【行動目標(SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する 【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 (C-4-5), E-2-2), 4) 【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 PC 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 1 健康の保持・増進と予防 オ 口腔の環境・機能 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-1) 口腔疾患の疫学 *①疫学とEBMの概念を説明できる。 *②スクリーニング検査を説明できる。 *③口腔疾患の疫学的指標を説明できる。 B-4-2) 保健医療統計 *①主な保健医療統計(人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査)を説明できる。 *②主な健康指標(平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率)を説明できる。 *③調査方法と統計的分析法を説明できる。 B-4-3) 保健医療情報 *①保健医療情報の取扱いと情報のセキュリティを説明できる。【診療情報(診療録等)を含む。】 *②医療情報の開示に関する注意点を説明できる。	後藤田 宏也
2016/12/14 (水) 2時限 10:40~12:10	平常試験	【授業の一般目標】 これまでの講義内容に対する理解度の確認 【準備学修項目】 これまでの講義内容 【学修場所・媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験 【学修方略(LS)】 演習 【場所(教室/実習室)】 302教室	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/12/15 (木) 3時限 13:00~14:30	プレテスト	【授業の一般目標】 これまでの学習内容に対する理解度の確認 【準備学修項目】 これまでの学習内容 【学修場所・媒体等】 302教室 PC Webクラスを用いた試験 【学修方略(LS)】 演習 【場所(教室/実習室)】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/12/15 (木) 3時限 13:00~14:30	プレテスト	302教室	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2016/12/19 (月) 2時限 10:40~12:10	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 歯科衛生士法，歯科技工士法，その他医療介護職の役割を理解し，死因究明制度を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯科衛生士法，歯科技工士法，その他医療介護職の役割を説明できる。 2. 死因究明制度，死亡診断書を説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 B-1, B-2-1), 2), 3), B-3-1), 2), B-4-1), 2), 3)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 PC</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ウ 保健・医療・福祉・介護の制度 f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ウ 保健・医療・福祉・介護の制度 b 歯科衛生士法 c 歯科技工士法 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 5 歯科法医学 ア 死体解剖と死因究明制度</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-1) 歯科医師法・関係法規 *③歯科衛生士法と歯科技工士法を概説できる。 *④医師法、薬剤師法および保健師助産師看護師法を概説できる。 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *⑨地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。</p>	有川 量崇
2016/12/19 (月) 3時限 13:00~14:30	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として必要な介護保険制度の流れを把握し，介護保険法について理解し，修得できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 介護保険法について説明できる。 2. 高齢者施策について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 B-3-2 ①~⑤</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 PC</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 2 保健・医療・福祉・介護関係法規 ウ 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 2 社会と歯科医療 ウ 保健・医療・福祉・介護の制度 f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種 歯科医学総論 総論 I 保健医療論</p>	有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/12/19 (月) 3時限 13:00~14:30	11. 口腔衛生・関連法規	<p>3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源 エ 介護施設 カ 福祉・介護の制度と職種 ク 保健・医療・福祉・介護の制度と連携</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 *①保健・医療制度を説明できる。【産業保健および医療供給体制を含む。】 *③介護保険制度を説明できる。 *④社会福祉制度を説明できる。 *⑤高齢者のおかれた社会環境を説明できる。 *⑨地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。</p>	有川 量崇
2016/12/20 (火) 3時限 13:00~14:30	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 B-3-2 ①~⑤</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 歯科疾患の予防・管理 1 齲蝕の予防・管理 ア 齲蝕の原因</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 *①主な口腔疾患 (う蝕、歯周疾患、不正咬合) の予防を説明できる。【生活習慣病の改善指導を含む。】 *②う蝕予防におけるフッ化物の応用方法を説明できる。【予防充填とブラークコントロールを含む。】 *③ライフステージにおける予防を説明できる。 *④集団レベルの予防と健康管理 (地域歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健) を説明できる。 *⑤口腔ケアの意義と効果を説明できる。</p>	田口 千恵子
2016/12/21 (水) 2時限 10:40~12:10	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-4-5), E-2-2), 4)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 II 健康管理・増進と予防 1 健康の保持・増進と予防 オ 口腔の環境・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-1) 口腔疾患の疫学 *①疫学とEBM の概念を説明できる。 *②スクリーニング検査を説明できる。 *③口腔疾患の疫学的指標を説明できる。 B-4-2) 保健医療統計 *①主な保健医療統計 (人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査) を説明できる。 *②主な健康指標 (平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率) を説明できる。 *③調査方法と統計的分析法を説明できる。 B-4-3) 保健医療情報 *①保健医療情報の取扱いと情報のセキュリティを説明できる。【診療情報</p>	後藤田 宏也

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2016/12/21 (水) 2時限 10:40~12:10	11. 口腔衛生・関連法規	<p>【診療録等）を含む。】 *②医療情報の開示に関する注意点を説明できる。</p>	後藤田 宏也
2016/12/22 (木) 3時限 13:00~14:30	加齢と代謝障害の病理学	<p>【授業の一般目標】 加齢による形態学的変化を理解するために、加齢の原則、病理学的特徴、代謝障害との関連性について学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 加齢の原則について説明できる。 2. 加齢による口腔諸組織の病理学的変化の基本的事項について説明できる。 3. 加齢に関連する退行性病変(萎縮・変性・壊死・アポトーシス)について説明できる。 4. 加齢に関連する進行性病変(肥大・過形成・化生)について説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 退行性病変(萎縮, 変性, 壊死, アポトーシス)の特徴</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室, マルチメディアの併用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 6 加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化 ア 形態的变化</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ウ 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化 b 歯周組織の変化 c 顎骨・顎堤の変化 g 筋の変化 i 口腔粘膜の変化 j 唾液腺の変化 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 2 細胞組織の傷害 ア 代謝障害（変性） イ 萎縮 ウ 細胞死</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *⑤舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。</p>	宇都宮 忠彦
2017/01/10 (火) 3時限 13:00~14:30	12. 発生・成長・加齢とその疾患	<p>【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する</p> <p>【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-2-2), 3), 4), E-3-1), 2), E-4-1), 2), 3), 4), 5)</p> <p>【学修場所・媒体等】 【講義】302教室 PC</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ウ 歯列・咬合の成長発育</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-2) 個体発生、器官発生 *①個体発生と器官発生を概説できる。 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患</p>	伊藤 梓

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/01/10 (火) 3時限 13:00~14:30	12. 発生・成長・加齢とその疾患	E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 *②一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。 *⑤舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。	伊藤 梓
2017/01/11 (水) 2時限 10:40~12:10	12. 発生・成長・加齢とその疾患	【授業の一般目標】 コアカりに記載されている学習項目の内容を理解する 【行動目標 (SBOs)】 1. コアカりに記載されている学習項目の内容を理解する 【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 (C-4-5), E-2-2), 4) 【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 小児の歯の硬組織疾患 ア 乳歯齲蝕 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-2) 小児の歯科治療 *②乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。 *③乳歯と幼若永久歯のう蝕の診察、検査と診断を説明できる。 *④乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明できる。【小児のラバーダム防湿法を含む。】 *⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の診察、検査と診断を説明できる。 *⑥乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症、予後および手順と留意点を説明できる。 *⑦小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査と診断および処置法と予後を説明できる。 *⑧咬合誘導の概念を説明できる。 *⑨保険処置の目的と種類、適応症および留意点を説明できる。 ⑩小児の歯科疾患の簡単な症例を処置できる。	岡本 京
2017/01/12 (木) 3時限 13:00~14:30	12. 発生・成長・加齢とその疾患	【授業の一般目標】 歯の発生を中心にコアカリの内容を理解する 【行動目標 (SBOs)】 1. コアカりに記載されている学習項目の内容を理解する 2. 歯の発生段階を列挙できる 3. エナメル器の構造を説明できる 4. 歯の形成細胞を列挙できる 5. 歯周組織の発生を説明できる 【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 (C-2-2), 3), 4), E-3-1), 2), E-4-1), 2), 3), 4), 5) 【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ウ 歯列・咬合の成長発育 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-2) 個体発生、器官発生 *①個体発生と器官発生を概説できる。 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患	鈴木 久仁博

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/01/12 (木) 3時限 13:00~14:30	12. 発生・成長・加齢とその疾患	E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 *②一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。 *⑤舌と唾液腺の発生とその加齢現象を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。	鈴木 久仁博
2017/01/16 (月) 2時限 10:40~12:10	顎顔面頭蓋の成長発育	【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する 【行動目標 (SBOs)】 1. コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する 【準備学修項目】 今まで学んだコアカリの範囲 C-2-2), 3), 4), E-3-1), 2), E-4-1), 2), 3), 4), 5) 【学修場所・媒体等】 【講義】302 教室 PC 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ア 脳頭蓋の成長発育 イ 顔面頭蓋の成長発育 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。	五関 たけみ
2017/01/16 (月) 3時限 13:00~14:30	発生・成長・加齢とその疾患	【授業の一般目標】 コアカリに記載されている学習項目の内容を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 高齢者の身体的な特徴を述べることができる。 2. 口腔の老化について述べることができる。 【準備学修項目】 今までに学んだコアカリの範囲 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 302 教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 9 特殊な装置による治療 ウ 摂食嚥下補助床による治療 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論VI 高齢者の歯科診療 13 管理に留意すべき全身疾患 カ その他の高頻度に見られる全身疾患・症状 18 補綴歯科治療 ウ 機能低下とその対応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *①老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 *②老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。	浅野 隆

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/01/16 (月) 3時限 13:00~14:30	発生・成長・加齢 とその疾患	*③高齢者に多くみられる疾患を説明できる。	浅野 隆
2017/01/17 (火) 3時限 13:00~14:30	頭蓋骨の成長	<p>【授業の一般目標】 頭蓋骨の成長を説明するために骨の成長様式を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 軟骨結合を説明できる。 2. 骨結合を説明できる。 3. 縫合を説明できる。 4. X線画像にみられる骨の部位を頭蓋骨にて説明できる。</p> <p>【準備学修項目】 セファログラムの計測点を理解する。</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室、頭蓋骨演習、マルチメディアを併用</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ア 脳頭蓋の成長発育</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 3 歯・口腔・顎・顔面の発生 イ 顎、口蓋 ク 軟骨内骨化、膜内骨化 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 イ 顔面頭蓋の成長発育</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】</p>	松野 昌展
2017/01/18 (水) 2時限 10:40~12:10	自学自習	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する</p> <p>【準備学修項目】 これまでの学習項目</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/01/19 (木) 3時限 13:00~14:30	自主学習	<p>【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの学習内容をすべて復習する</p> <p>【準備学修項目】 これまでの学習内容すべて</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/01/23 (月) 2時限 10:40~12:10	平常試験	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容を説明できる</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの講義内容を説明できる</p> <p>【準備学修項目】 これまでの講義内容</p> <p>【学修場所・媒体等】 302教室PCWe bクラスを用いた試験</p>	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/01/23 (月) 2時限 10:40～12:10	平常試験	【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	平川 剛 吉野 祥一
2017/01/23 (月) 3時限 13:00～14:30	共用試験 (CBT・OSCE) 受験に当たっての諸注意 CBT体験テスト	【授業の一般目標】 CBTに対応できる。 【学修場所・媒体等】 302教室 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/01/24 (火) 3時限 13:00～14:30	自主学習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習内容すべて 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/01/25 (水) 2時限 10:40～12:10	自主学習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習内容すべて 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/01/26 (木) 3時限 13:00～14:30	模擬試験 個人面談	【授業の一般目標】 これまでの学習内容を説明できる 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの学習内容を説明できる 【学修方略 (LS)】 その他 【場所 (教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準 (主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/01/30 (月) 2時限 10:40～12:10	自主学習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【行動目標 (SBOs)】 1. これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習内容すべて 【学修方略 (LS)】 その他	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/01/30 (月) 2時限 10:40～12:10	自主学習	【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 【コアカリキュラム】	吉野 祥一
2017/01/30 (月) 3時限 13:00～14:30	自学自習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習項目 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 大口 純人 岡本 康裕 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 吉野 祥一 青木 伸一郎 榎本 豊 石井 智浩 河島 睦
2017/02/02 (木) 3時限 13:00～14:30	自主学習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【行動目標(SBOs)】 1. これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習内容すべて 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/02/06 (月) 2時限 10:40～12:10	自主学習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【行動目標(SBOs)】 1. これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習内容すべて 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/02/06 (月) 3時限 13:00～14:30	自主学習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【行動目標(SBOs)】 1. これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習内容すべて 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 伊藤 誠康 大口 純人 岡本 康裕 岡本 京 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 平川 剛 吉野 祥一
2017/02/07 (火) 3時限 13:00～14:30	自学自習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習項目 【学修方略(LS)】 その他 【場所(教室/実習室)】 302教室 【国家試験出題基準(主)】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 大口 純人 岡本 康裕 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 吉野 祥一 青木 伸一郎 榎本 豊 石井 智浩 河島 睦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/02/07 (火) 3時限 13:00～14:30	自学自習	【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 大口 純人 岡本 康裕 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 吉野 祥一 青木 伸一郎 榎本 豊 石井 智浩 河島 睦
2017/02/08 (水) 2時限 10:40～12:10	自学自習	【授業の一般目標】 これまでの学習内容をすべて復習する 【準備学修項目】 これまでの学習項目 【学修方略（LS）】 その他 【場所（教室/実習室）】 302教室 【国家試験出題基準（主）】 【コアカリキュラム】	大峰 浩隆 宇都宮 忠彦 大口 純人 岡本 康裕 岡部 達 北川 剛至 田口 千恵子 三田村 佐智代 布施 恵 吉野 祥一 青木 伸一郎 榎本 豊 石井 智浩 河島 睦